

# めだかの学校だより

平成 29 年 5 月 1 日  
 第 96 号  
 学舎：周智郡森町一宮  
 「一宮総合センター」  
 事務局：静岡県磐田市  
 家田 529-20  
 TEL:0539-62-6691

## 校長訓話

第九十六回 校長 かまちよろろう

笑えば天国 歌えば極楽

青雲の志と言えばカッコいいが、とにかく東京へ出て漫画家になって一旗揚げようと思ったのが高二の時でした。新聞をとってなかった我が家に「朝日新聞」がやってきたのが高一の時、僕が親に無理言ってとってもらったのです。

その夕刊に載っていた「フジ三太郎」という漫画に出会ってしまったことが、その後の僕の人生を変えました。作者はサトウサンペイ。

当時の朝日新聞は、朝刊が今でもアニメで人気を誇る長谷川町子の「サザエさん」。超強力コンビでしたが、僕はサザエさんのユーモアも好きでしたが、シャープな線と風刺のきいたアイデアあふれるフジ三太郎の笑いのセンスにすっかり魅了されました。

それから毎日三太郎に会えるのが楽しみになり、面白い漫画はスクラップをし、そのスクラップ帳は今でも大切に保存し

ています。

それからは自分でも漫画を描き、描いた漫画を載せたいために、学校には無断でガリ刷りの新聞を作って校内にはばらまいたため、校長室に呼び出しをくらって大いに絞られました。今となればいい思い出です。

あれから五十年の月日が流れました。地元の方はご存知かと思いますが、今僕は静岡新聞の朝刊に、四コマ「ゴンちゃん」を連載しております。早いもので、この四月、おかげさまで八年目突入となりました。

「フジ三太郎」で四コマ漫画の面白さを知った僕が、新聞は遅いどころして新聞漫画を描いている。ちょうど五十年前読者だった自分のように、現在の新聞読者の皆さんに楽しみを与えられているのだろうか。問しながら執筆の毎日です。時々「ゴンちゃん」を読んでいて面白い、楽しいと小学生からの手紙をもらうことがあります。僕の漫画を読んで、将来漫画家になるうとする子ども達が出てくることを願っています。

「犬サブレ活動」についても少しお話しさせていただきます。

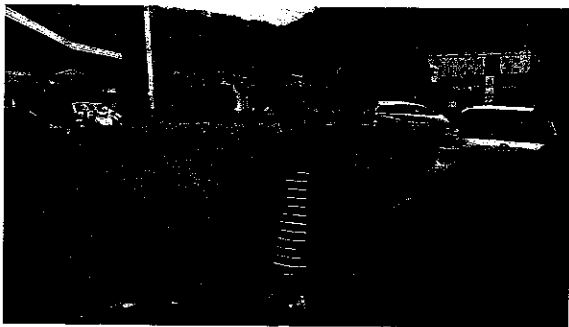
現在、僕は、本業ではないのですが、「犬サブレ」というコマのつばやきツイート漫画を描いています。ちよっと屈折したしよ

ぼい「サブレ」という名前の犬が、一言つぶやくだけでジワーっとくるという作風の漫画です。ライブルは相田みつをです。あの作風の対極にあるものと考えてください。

この「犬サブレ活動」の一環として、サブレの歌も作って歌っています。主に新宿のゴールデン街で、昨年は日暮里マルシェ、浜松ザザシティでも歌わせていただきました。

世の中に「犬のサブレ」の存在を知らしめんがために、漫画と歌、この両輪でこれからもがんばっていききたいと思います。

第96回、めだかの学校では、校長特別授業として「犬サブレ」の授業もやらせていただくことになりました。皆様奮ってご参加くださいませ。



## めだかの学校伝言板

——第96回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長/かまちよろろう

教頭/池田悦子

用務員/早川幸恵

給食係/大久保陽・村木謙弋・石野省三・田村進治

岩瀬進哉・中村やす代・牧野久子・大谷香代子

今村純子・山中幸子・早川幸恵

渡辺三ツ子(チーフ)

※お手伝いできる人はぜひ早めにお出かけを！

<学舎> 静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」

開校日/平成29年6月2日(金)6:20PMより

受付/大場敬子・大橋町代・北川金洋・斉藤昭(後見人)  
 24期通年テーマ:『素朴ともみえるひとつひとつの行動が未来へと広がっていく』

今回のテーマ:《規格外講師による規格外授業》

<時間割>

~2人の規格外先生による規格外特別授業?~

- 1時間目(30分) 社会「フォレストペアリンツとうい生き方とは」金子芳美 先生(豊橋市)
- 2時間目(30分) 国語「ダメ犬サブレの精神とその生き方…」かまちよろろう 先生(東京)
- 給食の時間~じゃが芋ご膳?~

9:30 閉校

# めだかの動き 泳ぎ回るめだかたち

## ■祭人の交流会で蕎麦打ち

お祭りが盛んな遠州地方で毎年先陣を切って4月初めに行われるのが、遠州横須賀の三熊野神社大祭です。この三熊野神社大祭では、観光協会と商工会に加えてまちづくり団体の遠州横須賀倶楽部の共催で、祭人の交流会が開かれています。日頃から世話になっていらっしゃる方々や全国各地の祭り仲間などをお招きして、三熊野神社のお祭りを楽しんでもらうとともに交流を深めようというものです。交流会は、かつて廻船問屋であった清水邸の本宅で大祭の2日目と3日目となる土曜日と日曜日の昼前から夕方まで開かれていて、お祭り見物の休憩所としても、多くのお客様が立ち寄り旧交を温めていかれます。

そんな交流会で、メダカの学校が縁で手打ちそばを打って振舞っています。そば打ちを始めた頃に鈴木武史メダカが所属する遠州横須賀倶楽部から依頼があり、蕎麦がたくさん打てるという引きを受けて以来、20年近くにもなります。回数は重ねていても太かったり細かったりいろいろ蕎麦ですが、私達が打った蕎麦を目当てに立ち寄ってくれる方も少なからずいらっしゃいます。

毎年、2日間で120枚から150枚ほどのざる蕎麦を出していますが、とても一人で打って茹でることはできませんので、中村明男メダカや鈴木正士メダカをはじめ多くの蕎麦打ち仲間、手伝って頂いています。祭りの交流会は遠州横須賀にゆかりのある方々の交流会ですが、私達蕎麦打

ち仲間にとっても情報交換や蕎麦打ちの腕磨きの良い機会になっています。メダカの皆さん、遠州横須賀三熊野神社大祭にお出かけ頂き、交流会場に寄ってみて下さい。お待ちしております。(遠州そば食文化研究所 主任研究員 松本芳廣メダカ)

## ■森町・町並みと蔵展

4月8・9日と遠州森町で「町並みと蔵展」が開催されました。このイベントは毎年春と秋年に二回、町の中心部を歴史を感じながら散策し買い物や展示も楽しむことが出来るもので、今回は第24回目。老舗のイベントになって参りました。

初日は時折激しく降る横殴りの雨に見舞われた生憎の天候でしたが、2日目は昼頃から雨も上がり暖かさも加わって人手が多くなり何時ものような賑わいを見せていました。着物を着て来ると人力車が無料です。雨模様の天候にも関わらず着物姿もチラホラ見かけられ、町並に風情を加えていました。

このイベントは毎回テーマが決められていて、森町出身の様々な功績を遺した偉人にスポットが当てられ、イベントを楽しみながら同時に森町の歴史を知ることにも出来ます。今回のテーマは「森町の生んだ国学者・小園重年」。8日の午後からはイベント事務局の裏の西光寺で町の教育委員会会の北島恵介氏による「小園重年」の講演会も開かれて、多くの方が聴講に訪れていました。また散策路の中のお蔵のひとつで彼の残した数々の書籍や功績の痕跡を展示しており、貴重な資料を間近に見られるような工夫もされています。この展示はいつも素晴らしいもので、イベント2日間だけでももったいないような濃い内容のものです。回を重ねるたびに広く深くな

るこの”郷土の偉人 シリーズ。主催団体や森町の方々の郷土愛にいつも感服しています。まだ行ったことの無いという方、ぜひ一度行かれることをお勧めします！(大島たまよメダカ)

## ■子どもたちの英語の声であふれる「しきじ土曜倶楽部」のぞいてみたら

磐田市内の子どもたちを対象に、英語を交えながら遊びやスポーツ、山や川での環境学習、四季の行事などを学ぶ「しきじ土曜倶楽部」。その始業式が4月15日(土)に旧豊岡東小学校で行われた。入校は幼稚園年長児から小学校6年生までの40人。

式典には磐田市教育委員会、静岡大学教育学部、教授、英会話講師、小学校校長、保護者、子どもたちの面々をみられる静岡大学の学生20人と、運営スタッフなど80余人が出席。地元の鈴木正士メダカと榊原幸雄メダカもスタッフとして参加。

「しきじ土曜倶楽部」は、15年前の学校完全週5日制導入を契機に地元有志が「過疎化や高齢化が急速に進む地域の教育力を高め、若い世代にとって魅力ある地域にしたい」と、静岡大学教育学部に協力を依頼し、快諾を得て立ち上げたもの。学舎のある敷地は、磐田市の北部、旧磐田郡豊岡村敷地。もともとこの地域には、子どもは地域で育てる「敷地教育」のあるところ。今は農協もなく、3年前には児童数の減少から幼稚園と小学校が廃校になった。その廃校となった旧豊岡東小学校の校舎で毎週土曜日に行われている。平成29年度は、4月15日(土)平成30年3月10日(土)まで年40回ほど開講される。活動時間は午前8時半から午前11時45分まで。活動内容は静大教育学部英語専攻の

学生と民間英会話教室の講師、スタッフらによる英語教育やスポーツ、外国文化、環境学習、四季の行事などを学ぶ。活動費は一ヶ月2045円。翌年3月の終了式の発表会では、保護者がびっくりするほどに成長している。

まだ空きがあります。お子様やお孫さんを入会させてみたら、めだか生のようないい加減な人(アクセント)に注意尻上がりになること請け合いです。問い合わせは、磐田市豊岡東交流センター 0539・62・6669へ。

## ■遠州森町発 第9回かわせみ街道・オープンハウス「ぶぶぶの日」

田舎へ行くこと、ことごとく懐かしい、なんとなく癒される。そんなふらっと来て、ふらっと見て、ふらっと寄って、人と自然を楽しむ、かわせみ街道オープンハウス「ぶぶぶの日」が5月20日(土)、21日(日)の2日間遠州森町(天方、三倉地区)で、30会場が開かれます。めだか生の「百姓人、自家焙煎珈琲屋 百珈」の早川幸恵メダカと、「夢街道匠宿 貧乏神社社三倉分社」(21日のみ)田邊哲メダカが参加。うまいそばと感動の珈琲。30会場歩くのは大変ですが、せめて「めだか邸」だけでも。早川メダカ0538・85・0866、田邊メダカ0538・86・0489。総合案内所は、森町体験の里アクティ森0538・85・0115へ。平日は森町産業課0538・85・6315三倉さん。

## 『人・ひと・ヒト...だより』

桜も終わって新茶の季節。4月24日静岡市で行われた静岡茶初取引で、なんと1kg108万円の史上最高値がついた。手摘み、手もみの、わせ品種「さえみどり」。

108万円の値づけは「茶寿」にちなんでつけた、と。生産者も買った人も富士宮市の人。その意気や凄〜い！。全体の平均単価は7706円とか。

●磐田市の山あい、大平の鈴木正士メダカ。23年来農業は使用せず、肥料も山草と菜種粕。それと10年来の物も。品種は「さやまかおり」と「やぶきた」と「在来」。それにいつ、どこで摘採し、製茶したなど極め細かく表示。それも一番茶のみ。こちらのこだわりも凄いです。毎年4月29日には「趣味の農業 お茶摘みと食事とコンサート」。遠来からの客やめだかやたっさんの人で大にぎわい。

●浜松市天竜区二俣の本島慎一郎メダカ。鈴木正士メダカの協力を得ながら、耕作できなくなった茶園を主催する「NPO法人元氣里山」で借りて、お茶づくり。二俣町のまるかわの蔵、「叉水」で売る。奥さんの真弓メダカが内助の功。

●浜松市引佐町の鈴木計芳メダカ。生産、加工、販売まで手掛ける。ちよつと渋みのある『洪川茶』。浜松市三方原のJAFファーマーズにはコーナー半分を占めるほどの計芳茶が並ぶ。今年も竜ヶ岩洞の鍾乳洞を利用して熟成茶に取り組む予定、とか。お茶は島田市阪本の池谷俊裕メダカ。黄瀬川はつ枝メダカも頑張っている。静岡市清水区の花井孝メダカは、静岡の茶祖、聖一園師を日本語、英語、仏語、中国語のマンガ本で紹介。茶道の師匠もいます。めだかの学校で、野点や園茶会など茶会をやりませんか、面白いかも。

●磐田市、袋井市、掛川市などで、4月9日告示、16日投票の、全国ミニ統一地方選挙があった。そのうちの磐田市議会選挙では、草地博昭、川崎和子、芦川和美、高田正人、虫生時彦の5人のめだか生が立候補。全員が当選。草地メダカにあつては6

800余票、2位との差は3000票ほど、それも2期連続のトップ当選。女性議員は26人中2人、それもめだか生でした。森町は無投票だったが、亀澤進メダカが町議に、現町長は太田康雄メダカ。

●愛知県東栄町の伊藤静男メダカ。「三遠南信・奥三河から情報発信・地域の活性化を！」と創立した和太鼓集団「志多ら」中心の、「NPO法人てほへ」の理事長。廃校となった小学校の校舎で、体験交流や『カフエのつきい』などの運営をしている。2017年三遠南信サミットは、遠州浜松市が開催地。住民連携をしたい。和太鼓集団「志多ら」も新しい全国ツアーを遠州地方からやりたいのでぜひ協力をして。奥さんの公子メダカの協力があつて頑張れる、だつて。

●磐田市の田村進治メダカ。この4月から磐田市連合老人会豊岡支部の支部長と老人福祉施設の理事に。平成25年10月に設立した、高齢者や病気の人たちを応援する会員数35名の『生活応援倶楽部』の部長も。28年度の支援実績は638件だつて。ヨガやスポーツ吹矢、マージャンなど趣味も豊富、元氣もいっぱい、と。

●浜松市引佐町の鈴木一記メダカ。引佐町久留女木の棚田を守る会「竜宮小僧の会」の会長。『天大河ドラマ「女城主 直虎」の前半にたびたび出た「竜宮小僧」の出处は、二二久留女木の棚田の伝承』と。仕事は農協職員。田んぼと写真と講演と忙しい。12月の給食の「飯はこの棚田米ですぞ」。

●磐田市の鈴木祐之メダカ。JR磐田駅前アース薬局の常務。お店に来る高齢者の良きアドバイザー。話し相手にもなっている。この頃はお店を早く終えず、給食当番ができなくて残念。ドライブが好きで神社仏閣巡り、温泉巡り、絶景巡りテニスもゴルフもやる。あとはお嫁さんを待つのみ、とか。

●浜松市の渡辺三ツ子メダカ。給食チーフ。「おいしい給食を出すには素材を知らなければ」と畑仕事もやっている。美味しい情報を聞けば仕入れては給食に出す。調理も自分でやってみる。息子さんの仕事も手伝っている。2ヶ月に一回東京へ演劇鑑賞に。いや〜元氣元氣。結構で〜さいます。ハイ。

●豊橋市の金子芳美メダカ。2月28日から3月8日までタイ・ラオスに。つい最近タイのバンコクのスラム街にあるプデーブ財団とラオスの学校建設の打ち合わせと視察に行つて来た、だつて。お話しは、6月2日の規格外先生のひとり、お楽しみに。

《新入生紹介》  
●森町の早川幸恵メダカ。農業を食とする人と人のつきあいが狭くなっているように感じる。めだかに通つて見聞を広めて、森町を活気ある町にするNPO法人を立ち上げたい、と。

●浜松市の浜北区の北川金洋メダカ。浜北でマツサジ業をしている。皆さんが元氣になれば嬉しい、と。魚釣りは超得意。油絵は20年間絵筆をふるう。海外旅行、温泉旅行、四国のお遍路巡りが夢だつて。

××× ×××

今回は紙面の都合でこれまで、みなさんの思いや希望などありましたらご連絡を。FAXやはがきで。

### 《めだか春秋》

「公園は地域の「もやもや」を解決する場所になるか？」  
最近、東京で「パーク・リノベーション」

というワークショップを2回ほど開催しました。少子高齢化社会への警鐘が鳴らされている中、私の仕事の分野である「公園」という場所に大きな可能性を個人的に感じているので、それを色々な人と共有したり、気づいてもらったりできたらと思つたからです。（同名の会社を立ち上げる予定も）

公園は、多種多様な目的と機能を持っており、全体の用途はふわっとしてつかみどころがないようなものになっています。だからその可能性は無限だつてこと、お気づきでしょうか？（既に先進的な事例はたくさんあります）

そんな訳で、社会の課題は確かに大事ではあるのですが、ワークショップでは、公園と自身の「もやもや」を結びつけることを目的にいくつかのセッションを行いました。誰でも心の中に抱えている小さな「もやもや」。健康、子ども、親、仕事のことなど多岐にわたりますが、それらを公園という場をどう使い倒したら解決できるのかの妄想を、参加者全員でひたすらしたのが最終的なセッションでした。

想像以上に、公園を参加者のみなさんの「自分ごと」へ転化することができて、様々な年齢、職業の参加者で盛り上がる事ができました。

花や緑、公園という場を使ってまちづくりを仕掛ける仕事をしていますが、こういう「そもそも論」的なことはやはり大切なんだなあと思わせてくれたワークショップでした。（木村智子メダカ）

※お知らせ  
めだか春秋はリレー形式で。文字数は18文字37行以内。第97回めだか春秋は、磐田市の小林佳弘メダカ。お楽しみに。

# トピックス

## ■直虎シーズン到来

NHK大河ドラマ「女城主直虎」の放送開始から5ヶ月が経過しようとしているが、開始数ヶ月前から直虎の墓がある龍潭寺を中心に、関連する地域や史跡を訪れる人たちが日に増えてきている。それに伴ってインフラ整備の遅れや不備がささやかれ、慌てて予算化されたり対応がなされたりしてきたがなかなか追いつかない。本格的に行楽シーズンを迎える頃は何とか環境が整ってきたが、インフラ整備とは裏腹に観光産業や製造業などは先駆けて関連商品を次々と発表し宿泊施設でも着々と準備を進め、コマースヤルも着実に進められていた。

季節的に遅い春を迎えると共に訪れる観光客が増え続け、細江町にある「ドラマ館」へは4月上旬には20万人を越えたとか！予定よりかなり早い到達のようだ。あの狭い「ドラマ館」へよくぞ入ったものだと感心する。聞けば、昔の話だが上野動物園でパンダが公開された時を思い出そうだと！ポラントニアの方もお出掛け頂いたのに満足感を得られたか心配だよと！長蛇の列とはいかないものの、働き蟻のごとく出入りが途切れないようだ。龍潭寺周辺の駐車場は常に満車状態でドライブには「ご苦労をかけているのでは」と。団体の方も大型バスで、感心するのが伊平、洪川、ひいては久留女木などの北部地域まで乗り入れてくるのには驚かされる。目的はといえばお墓がある、ロケ地であるとのことのようにだ。観光会社の強さかな。

我がめだか生も直虎の知名度向上に中心となって動き回っているのが細江町の上嶋裕志メダカだ。直虎ゆかりの地 歴史秘話物語「女城主 井伊直虎」のマンガ版を①から④までと、英語版を⑤出版し、ホテルを始め各関係機関で販売している。(各100円)

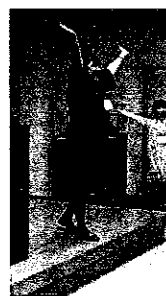
また、「井の国千年お宝さがし 井伊家ゆかりの地を巡るとして」「女城主直虎検定」を実施している。中身は「写真で答える」13問を始め、「洪川・寺野」、「伊平・川名」、「細江・中川」、「庄内」、「井伊谷周辺」「龍潭寺」そして「番外編」から合計100問が示されている。楽しみつつ真剣にかなり多くの人が参加者しているようだ。問い合わせ先と解答の送り先は、〒431-1301 浜松市北区細江町小野269-4 姫街道未来塾「直虎検定」係、締め切りは平成29年2月10日必着、電話053-523-2958です。締め切りは終わりましたが、めだか生もゆかりの地を検定しながら歩いてみては！ドラマをよりワクワク感で見られるのでは？

## ■事務局だより

真剣に耳を傾けた！笑って動いた！めだかの学校授業では久しぶりかな？何年ぶりかな。晴れた穏やかな春日で、時間がとれたので外釜でタケノコを茹でた。改めて自然の世界をゆつくり覗くことが出来た気がする。田舎に住んでいるにもかかわらず風の気持ちよさを感じ、周りを蝶や甲殻類など自由に動き回り、何種類かの鳥がさえずり、そこはかとなく 新芽の香りを楽しんだ。たまには大切にしたい時間なんだと思いつき感じた。

95回めだかの学校も正にこんな思いをもった。1時限目今村純子メダカと大島たまよメダカの親子ペアによるひな祭りに

ちなんだ授業。雑衣装に身を包んでの熱弁。内容はいかで？忘れ去られようとしていたか？忘れ去られている日本文化を次世代へ受け継ぐ役目がメダカ生にあるのかなと思わせてくれた。



2時限目の西川裕子メダカによる笑いヨガ、皆さん久しぶりに元気になられたのでは！笑って声を出すことがどれだけ副交感神経を刺激してくれることか、思い知らされたよ。3人のメダカありがとう。

今回96回は規格外先生の規格外授業、規格外って何だろう？

1時限目は豊橋市の金子芳美メダカ、話し上手な金子メダカの人生論を楽しみに！2時限目は東京都のかまちよしろうメダカ、マンガ上手だからマンガに基づいた話が聞けるかな！校長でありながら先生だから規格外かな？

通年テーマをおさらいしておきましよう。素朴ともみえるひとつの行動が広がっていく。だよ。心して二人の先生の授業を受けましよう。

■第25期の受け付けをしています  
第24期は6月2日(金)の第96回めだかの学校の授業で実質終わりととなります。

第25期は、平成29年9月1日から30年8月31日までです。毎年度入校手続きが必要ですが、継続希望の生徒も、同封の申込書に入学金1000円を添えて継続手続きを お願ひします。第96回の開校日より受け付けます。登校できなかった生徒は、29年8月31日までに事務局あてにお送り下さい。手続きがなされない生徒は名簿からはずれ自主退学扱いとなります。ご注意下さい。新しく入校を希望される方は事務局まで、ご連絡下さい。申込書と資料送ります。

■今回も「めだかの学校だより」遅れてごめんなさい。

いつもお手伝い頂いてありがとうございます石野省三メダカ、鈴木武史メダカ、伊藤英雄メダカ、松本芳廣メダカ、大島たまよメダカ、間瀬亮太メダカ、発送などのお手伝い榊原明美さんありがとう。

■めだかの学校だよりの原稿を！

次回の発行は、29年8月1日予定。締切りは、7月20日。みなさんの日頃の活動、イベントの開催など、あなたの顔の見える情報をどんどん、手紙でFAXで電話で：待っています。メールの方は、

《mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp》  
間瀬亮太090・5009・0986です。  
(メールの方は別封の関係もあるので「報せ」)

## ■めだかの学校の事務局

〒438-0105 静岡県磐田市家田529番地20 榊原幸雄方 TEL 0539-62-6691 (FAX 同じ)  
※学舎「一宮総合センター」周知郡森町一宮3150。電話0538-89-7730 開校日の午後4時以降のみ使用可。  
携帯 080-1612-9130

